

●京都府立堂本印象美術館

<p>前回検証結果 (平成26年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収支を改善するため、有料利用者数の増加につながる事業の実施に努めること。 ・ 2020年の東京オリンピックを見据えた文化発信事業の中で、当施設をどのように活用していくかという中長期的な戦略が必要。 ・ 引き続き、利用者数の拡大に向けた営業活動の展開や自主事業の実施等、利用促進の取組を行うこと。 ・ 創立50周年(平成28年)を目指し、より魅力ある美術館とするための改修(リノベーション)を行うこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度は大規模な展覧会や、多彩なテーマを取り上げ、指定管理者制度移行後、最高の有料入館者数を記録。 ・ 文化芸術の発信拠点として館単独だけではなく、府域の文化施設との連携を図り、京都文化の発信に寄与。 ・ 平成28年度末からリノベーション工事を実施し、平成30年3月20日にリニューアルオープン。グッド・デザイン賞を受賞。「入りやすく親しみやすい美術館」をコンセプトに来館者の利便性向上や美術作品の収蔵環境を改善。 ・ リノベーション工事で新たに整備された庭園等を活用した野外展覧会等を、関係団体と連携して開催し、幅広い分野・年齢の府民等に来館してもらえるよう改善。 ・ リノベーション事業では、外国人観光客等多くの集客を図れるよう入口を広げ、館銘板を日英標記にするなど、入りやすく親しみやすい美術館へ改修。 ・ リニューアルオープン後から積極的にメディアを活用するとともに、展覧会の内容充実を図り、平成30年度には過去最高の入館者数を記録。
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成30年度は指定管理者制度移行後、過去最高の利用者数を記録。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆有料利用者の更なる増加が必要。 利用者の約半数は無料の65歳以上。 ◆リニューアル後、継続した集客の手法の検討が必要。 新たに取り込む利用者(大学生・一般観光客)の集客方法、交通不便の解消に向けた取組等が必要。

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□経営方法について、以下のような工夫の検討が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立命館大学との一層の連携・協力体制の構築。 ・大学コンソーシアム等を通じた学生たちが利用する仕組みづくり。 ・小・中・高・大との連携により、広く親しまれる施設としての活用。 ・利用実態から抽出した課題を踏まえた運営マネジメント。 ・顧客層を再検討し、有料利用者層の拡大など、稼げる美術館として採算性の改善についての検討。 <p>□堂本印象を記念するイベント・賞の創設など堂本印象の価値を高めるための取組の検討が必要。</p> <p>□ブライダル関連利用の推進など、安定した収益確保策を積極的に検討すべき。</p> <p>□入りやすく親しみやすい美術館というコンセプトを今後一層浸透させるソフト面の施策拡充が必要であり、一般来館者の増加に向けた展示企画や市内他施設とのコラボレーション、エリアにある神社仏閣と一体での文化ゾーンとしての認知向上等、美術館の更なる活用が必要。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p>◎堂本印象の価値を高める取組、利用実態や採算性を踏まえた運営マネジメントにより、幅広い層の利用を促進する取組を行うこと。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣大学の学生をはじめ若年層の利用を促す企画の創出や庭園の活用等、幅広い層に利用してもらえるよう新たな取組を進める。 ○近隣の施設等と連携したイベント開催やコラボレーション等、地域一帯で文化ゾーンとしての事業を展開するなど、堂本印象や美術館の価値及び認知度を高め、利用促進や収益確保も見据えた取組を進める。